

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 玉川大学教育学部

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒194-8610  
東京都町田市玉川学園6-1-1

E-mail : makoto@edu.tamagawa.ac.jp

Website : http://www.tamagawa.jp/

児童生徒数：男子 504 名 女子 638 名 合計 1142 名  
 児童・生徒の年齢 18 歳～ 25 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地球市民教育）

#### 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

##### 1. ユネスコスクール研修会

##### 「ESDと教師教育－持続可能性を志向する授業づくりの新たな展望」

玉川大学教育学部は、加盟するユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) が文部科学省より受託した「平成26年度 日本／ユネスコ パートナーシップ事業」の一環として、2014年12月6日(土)に、玉川大学を会場に「ユネスコスクール研修会：ESDと教師教育－持続可能性を志向する授業づくりの新たな展望」を開催した。

玉川大学教育学部は、2009年以来、過去5年間にわたりASPUnivNet加盟大学として、文部科学省委託事業「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」の枠で、多摩市、稲城市、世田谷区、横浜市をはじめとする近隣地域におけるユネスコスクールの加盟促進と、ユネスコスクールにおけるESDをテーマとした教員研修に成果を上げてきた。しかし、ユネスコスクールにおける教育の質を高めるためには、ASPUnivNet加盟大学が果たすべき役割として、教員養成課程における教科教育法の改善、社会科、理科、生活科を通じた指導カリキュラム開発や教材開発、またとくに教師教育プログラムの拡充が焦眉の課題となっている。

「平和と持続可能性」を根本理念とするユネスコ精神に則ったユネスコスクールの教育活動をグローバルな視野のもとに効果的に展開してゆくためには、ESDの視点から現在の教師教育に何が求められているのかを今一度原点に立ち戻って検討し、ESDの諸課題を教室の現場で教師の授業づくりにどのように落とし込んでいくかを示す具体的方法論を確立することが求められている。

こうした問題意識をふまえ、平成26年度の玉川大学教育学部の「日本／ユネスコ パートナーシップ事業」として、日常的な学校教育活動において児童生徒の心の中にユネスコの根本理念である「平和と持続可能性」(Peace and Sustainability)への心性を養うという課題設定のもと、今日的な現実生活と密着したESD指導のできる教員の養成を目標に、授業づくりの方法論に焦点を当てた「ユネスコスクール研修会：ESDと教師教育」を実施した。このユネスコスクール研修会のねらいは、実践的な教育力に焦点化したESDの質的検証の方法論を具体的に開発することであった。そこでは吉田敦彦大阪府立大学教授の基調講演および池下誠練馬区立開進第一中学校主幹教諭の実践報告に続き、ユネスコスクールに深く関わってきた行政関係者、研究者、教員、NPO関係者によるパネルシンポジウム「持続可能性を志向する授業づくりの新たな展望」が行われ、1)学校教員はじめユネスコスクール関係者において、継続力、実践力、行動様式、思考様式、価値観の変容にいたるESDの基礎的な教育力を養うにはどうしたらよいか、2)ESDの理想的理解をふまえながら実践的に質の高い教育活動を展開できる教師の指導力をどのように向上させていくか、3)自ら環境に働きかけ、グローバルな視野を持って自分とまわりの環境を変えていける児童生徒の「生きる力」(レジリエンス)をどう養成していくか、等の課題が多角的に議論された。

全国から35名の参加者を得たこの「ユネスコスクール研修会：ESDと教師教育」においては、これまで本学が開催してきた「ESD地域フォーラム」とは異なり、教師がどのようにESDを受けとめていったらいいのか、教材開発やカリキュラム開発というシステムの側面だけでなく教員一人ひとりの授業づくりの姿勢にESDをどう反映させていくか、という教師教育の課題に焦点化して実践的な議論が行われたところに大きな特徴がある。また会場の参加者からは、こうしたESDに関わる教師教育の課題を深めていくために、小中高だけでなく、幼稚園や保育所などプリスクールとの連携をはじめ、学校種を越えた協同と連携の必要性が指摘された。ESDの後継プログラムであるGAPにも強調されているように、ESDのさらなる促進に向けて教師教育にはとくに大きな役割が期待されており、ESD地域コンソーシアムのキーパーソンでもある教師がESDの専門家として獲得すべき教育力、行動様式、態度、価値観、考え方などについて、次世代の教員モデルに目を向けた幅の広い前向きの、しかもきわめて具体的な議論を展開することができたのは、「ESDに関するユネスコ世界会議」の結果を受けて、その直後に行われたユネスコスクール研修会として大きな成果であったと評価できる。

## 玉川大学ユネスコスクール研修会 「ESDと教師教育－持続可能性を志向する授業づくりの新たな展望」

日時：平成26年(2014年)12月6日(土) 13:00～17:00

場所：玉川大学 大学研究室棟 会議室 B104

主催：玉川大学 教育学部

共催：ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)

後援：ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、多摩市教育委員会

### プログラム

#### <1. 開会式>

13:00～13:10 開会の挨拶 寺本 潔(玉川大学教育学部長)

#### <2. 基調講演>

13:10～14:10 「ESDへのホリスティック・アプローチ：もうひとつの持続可能な未来へ」

吉田 敦彦(大阪府立大学教授)

#### <3. 実践報告>

14:10～14:45 「ESDと社会科教育」  
池下 誠(練馬区立開進第一中学校主幹教諭)

14:45～15:00 休憩

#### <4. パネルシンポジウム>

15:00~16:45 「持続可能性を志向する授業づくりの新たな展望」

##### シンポジスト

渡辺 一雄（ユネスコ・アジア文化センター参与）

「ESD ポスト2014: ユネスコスクール世界大会を振り返り」

市瀬 智紀（宮城教育大学教授）

「教育の質の向上に向けた ESD の学校実践と教師教育について考える」

棚橋 乾（多摩市立多摩第一小学校校長）

「ESD で育成する学力と指導について」

住田 昌治（横浜市立永田台小学校校長）

「持続可能な教育を実現する学校づくり:

ESD の10年を超えて教師自らが変容するために」

森 良（ECOM 代表）

「ESD が促す教師の成長: 多摩市・稲城市の ESD とのかかわりから」

司会進行 寺本 潔（玉川大学教育学部長）

#### <5. 閉会式>

16:45~16:55 総括と講評 渡辺 一雄（ユネスコ・アジア文化センター参与）

16:55~17:00 閉会の挨拶 寺本 潔（玉川大学教育学部長）

### 2. 「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」ホームページの運営管理

多摩市や稲城市、川崎市、横浜市など近隣自治体とのユネスコスクールにおける連携を強め、ASP 地域ネットワークとしての機能を拡充するために、平成 24 年度に開設した WEB 上のホームページ「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」(<http://unesco-school-tama.jp>) を本年度のユネスコスクール活動の拡充と連絡体制の強化のために運営管理した。

### 3. 「ユネスコスクール世界大会」(第6回ユネスコスクール全国大会)への参加

2014年11月5日~8日に、「ESD に関するユネスコ世界会議」のステークホルダー会議として岡山市で開催された「ユネスコスクール世界大会」(とくにそのひとつとしての『第6回ユネスコスクール全国大会』)に本学教育学部長の寺本潔教授が参加し、小学校分科会の司会・運営を行った。

### 4. ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet) の活動

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) の加盟大学として、「平成 26 年度 日本/ユネスコ パートナシップ事業」ASPUnivNet 連絡会議に参加し、加盟大学間のネットワーク強化と共同事業の展開に向けた提案と協議を行った。

またとくに本年度は東海大学の ASPUnivNet 加盟を支援し、首都圏における

ユネスコスクール加盟支援について、玉川大学と東海大学との間に地域分担を定めた（玉川大学→東京都、茨城県；東海大学→神奈川県、千葉県）。

## **5. 玉川大学ユネスコクラブの活動**

ユネスコスクールにある課題活動団体としての玉川大学ユネスコクラブは、2014年6月23日～7月1日にかけて、玉川学園との提携校でもあるアメリカ・エヴァーグリーン大学の日本への訪問学生団との交流プログラムを実施した。交流会では、日米両国の文化や教育事情についてお互いに紹介をすると同時に、気候変動、エネルギー問題、社会格差、民族対立やテロなど、国や文化圏を超えて人類が共通に直面しているグローバルな諸問題について大学生の立場から議論と意見交換を行い、「地球市民」としての自覚を深めるきっかけ作りとして活用した。来年度は、ユネスコクラブの国際交流活動のいっそうの充実を目指して、アメリカ・ミシガン大学の学生との交流も行う予定である。また来年度の活動としてアメリカ・ユネスコ協会連盟（USFUCA）の主催する模擬国連を中心にすえたIMUNサマーキャンプへの参加も検討している。

青年ユネスコ活動の連携強化と地域ネットワークの構築に向け、港ユネスコ協会の提唱に基づき、玉川大学ユネスコクラブ、慶應義塾大学ユネスコクラブ、港ユネスコ協会青年部、新宿ユネスコ協会青年部の共同企画による研修会「UNESCO ユースフォーラム in みなと2014 - つながり始める僕らの New World」が2014年10月4日（土）に、港区立男女平等参画センターを会場として開催された。ユネスコ活動の今日的課題を再検討し、ESDをはじめとする社会の要請に対し、青年がいかに連携し、取り組んでゆくかについて議論を深め、またこうした協同の学び合いを目的としたUNESCO ユースフォーラムを今後も継続的に行ってゆくことで合意した。また、奈良教育大学ユネスコクラブ、慶應義塾大学ユネスコクラブ、ICUユネスコクラブとは個別にSNSでの対話および相互訪問による交流を行い、大学ユネスコクラブ相互の学びあいと課題共有を進めた。

さらに2015年2月19日～23日にかけて玉川大学ユネスコクラブは三重県鳥羽市へのスタディツアーを実施した。志摩地域の文化遺産を見学すると同時に、地域のかかえる開発課題について現地の人々との交流を通じた実践学習を行い、同時に日本国内における文化の多様性と地域の文化伝統の価値について学んだ。

## **6. 「ユネスコスクール - 地球市民教育の理念と実践」**

ESDの推進拠点としてのユネスコスクールの現代的意義と教育課題について教育関係者を初めとする社会の関心をいっそう高め、参加への動機づけを促すために、教育学部のユネスコスクール担当教員小林亮教授による著書「ユネスコスクール - 地球市民教育の理念と実践」が2014年11月20日に明石書店より出版された。本書では、ユネスコスクールの歴史と、ユネスコが提唱してきたさまざまな価値教育（とくに国際理解教育、持続可能な開発のための教育ESD、地球市民教育）との関わりが分析され、国内外のユネスコスクールの優良事例が紹介されると同時に、2015年以降にむけたユネスコスクールの将来展望と課題が考察された。とくに今後の展開に向けてのユネスコスクールの教育課題として、1) ユネスコの価値教育の体系化、2) ユネスコスクールをめぐるネットワークの多重化と組織化、3) 児童生徒の悩みに応える心理教育的支援の視

